

派遣の4割 正社員希望

厚労省調査

派遣労働者の約4割が正社員への登用を希望していることが17日、厚生労働省の実態調査で分かった。派遣で働く人の年齢層は40歳代前半が最も多く、5年前の前回調査で最多だった30歳代後半から上昇した。中高年化が進んでいる実態が浮き彫りになった。

調査は2017年10月1日の状況について、全国の事業所1万7072カ所と、そこで働く1万

4077人の派遣労働者を対象に実施した。1万158カ所、8728人から回答を得た。派遣労働者に今後の希望する働き方を聞いたところ、正社員と回答した人が39.6%にのぼった。派遣として働きたい人は26.8%、パートなどは5.4%だった。また派遣労働者の年齢層は40〜44歳が16.5%で最多。12年調査の最多は35〜39歳の19.5%だった。平均賃金は時給換算で1336円と、12年調査から3円の微増にとどまった。派遣労働者を就業させる理由を事業所に聞いたところ、「欠員補充など必要な人員を迅速に確保できるため」が73.1%で最も多かった。

派遣社員4割「正社員で働きたい」

派遣社員の4割が「今後は正社員で働きたい」と考えていることが、厚生労働省が17日発表した2017年の実態調査で分かった。ただ、調査では派遣社員が派遣先で正社員に採用されにくい実態も浮き彫りになり、「狭き門」の状態が続いている。

調査は4〜5年ごとで、今回で4回目。17年9〜11月、従業員5人以上の事業所を対象に同年10月1日時点の状況を尋ね、1万158事業所、派遣社員8728人から回答を得た。

厚労省が昨年調査

採用の実態とズレ

派遣社員に今後の働き方の希望を尋ねたところ、「正社員で働きたい」が39.6%で最も多く、「派遣社員」が26.8%、「パートなど」が5.4%で続いた。正社員を望む人の勤務希望先は、「今の派遣先」が最多で56.8%だった。

一方、派遣社員が働く事業所のうち、「派遣社員を正社員に採用する制度がある」のは24.4%だった。また、「過去1年間に正社員に採用したことがある」のは、制度がない事業所を含めて13.0%

にとどまった。

派遣社員をめぐっては、15年9月末施行の改正労働者派遣法で、同じ人の同じ部署への派遣期間を一律3年に限る「3年ルール」が導入された。3年経過した派遣社員について、派遣会社は、派遣先に直接雇用されるように頼む▽派遣会社で無期契約で雇う—などの対応を取る必要があると定めている。その対象者が9月末から始めている。

政府は「希望する人に正社員になれる道が開かれるようにする」と改正の狙いを説明してきたが、逆に雇い止めの懸念も高まっている。背景には、こうした派遣先の実態もありそうだ。(松浦祐子)